

半導体漫遊記

174

湯之上隆

神戸製鋼、三菱マテリアル、東レ。日本を代表する素材メーカーで品質偽装を行っていたことが明らかになり、世間を騒がせている。新聞報道によれば、神戸製鋼は、40年も前から品質偽装を行っていたという。なぜ、品質偽装がこれほど長期間も続けられてきたのだろうか？

元半導体技術者である筆者は、その品質がどのようなもので、どのようにに検査するのかは何も知らない。従って以下で述べることは、あくまで私の推論である。

サプライヤーである神戸製鋼と、自動車メ

素材メーカーの品質偽装問題

「過剰な超高品質」変更せず

「カーなどのカスタマーの間では、40年以上前(50〜60年前?)に、納入する製品の品質基準が決められたのだけあれば大丈夫という水準の10倍の品質」で契約がなされたという。このような超高品質の製品を工場生産し続けると、「10倍の超高品質」をつくる文化が定着する。

しかし、そのような中で、10倍は満たさない結果、サプライヤー側で、カスタマーの了解を得ず、「ま、これでもいいんじゃない?」ということが平然と行われるようになったのではないかと、そうこうしているうちに、中国産の安価な素材が出回ってくる。

だろう。恐らくそれは、明らかな過剰品質だったと思われる。それが、適正水準の数10%以上などという生易しいものではなく、数倍〜数十倍、もしかしたら数十倍もの超高品質で契約がなされたのかもしれない。

仮に、「最低限これいけれど、9倍のマーシンは満たしている製品が製造されてしまったらどうなるだろう。契約では、これは不良品となる。しかし、カスタマーもサプライヤーも、この程度なら安全性に問題はないと判断するに違いない。実際、契約上の品

し、2倍程度でも「まだ大丈夫」と判断されてもおかしくなく、もっと速くつくらねばならないプレッシャーをモロに受ける。その結果、製造現場では、「もともと10倍もの過剰なマーシンの文化として定着していたのではないかと



図1 相次ぐ素材メーカーの品質偽装 (神戸製鋼、三菱マテリアル、東レの子会社)

条として、それを愛えることなど思いもよらなかったからだろう。つまり、素材メーカーの品質偽装の本質とは、①あまりに過剰な超高品質を適正品質に変更しなかった(できない)こと、②製造現場が「この程度なら問題ないだろう」と勝手に判断をする「企業文化」が定着したことが原因だったと推測する。読者諸賢の皆さまは、どうお考えでしょうか? (微細加工研究所・所長)